

千西一遇

第113号
発行
2024年
5月9日(木)
上田西高 校
新聞委員 会
編集局
編集局長: 田村さくら
新聞委員長: 金井 茉優

上田市の子育て支援

様々な世代を対象にワークショップを開催し課題解決図る



高校生によるワークショップの様子=健康プラザうえだ

同じ境遇の他人と議論し解決策を探る

今回の「子育て世代 者 小学生児童の保護者等のワークショップ」は、「第3次上田市子供・子育て支援事業計画」策定に向けた動きであり、就学前児童の保護者、中学生の保護者、高校生、小中学生を対象に5回開催された。ワークショップは、自己紹介からスタートし、打ち解けたところで付箋をまともな意見を出し合った。最終的には大きな模造紙にまとめ、グループの代表者が全体に向けて

3月12日、16日、17日までの3日間、5つの世代別にひとまげんき健康プラザうえだにて参加者を集い、「子育て世代等のワークショップ」が開かれた。上田市の子育てについての課題や理想について意見交換を行い、解決策まで話し合った。編集局では高校生向けのワークショップに実際に参加。また、就学前児童のワークショップ取材し、上田市の子育てに対する課題やあり方に迫った。(金井 茉優)

子育てへの理解を深めるために 高校生・保護者から様々な意見が

現在の日本の子育てにおける1番大きな課題は少子化であり、当然この問題は上田市でも課題となっている。

グループ内での意見を発表した。

高校生の部のワークショップに参加した上田西高校の大田すみれさんは、「自分とは違う意見や考えを多く聞くことができ勉強になった」と話した。身近なことを取り上げた内容だったが普段は考えないことだったため両親へのありがたみを改めて感じる機会になったそうだ。

また、就学前児童の保護者で行われたワークショップの参加者は「自分が話だけでは、ほかの人の意見を聞いて一緒に解決策まで考えることができている機会になった」と感想を述べた。同じ小さな子供を持つ保護者として共感し合う話も多かったそうだ。

保護者目線からの意見を取り入れることができれば子育て社会がより良いものになるだろう。(金井 茉優)

上田市子育て支援課で今回のワークショップを担当した高橋英之さんは、子育てしやすい環境が実現するにはいろいろな場で理解が深まること重要であると話す。また、課題解決には市民一人一人の子育て全般の対しての意識が必要だ。

今回のワークショップを担当した上田市子育て支援課の高橋さん



グループディスカッションの結果を発表する上田西高校の大田さん

今回のワークショップで私たち高校生からは学校に対しての意見が多く出た。授業料が高い、校舎が古い、学食を増やしてほしいなど通う学校は違っても、同じ考えを持っていた。

保護者の方々のワークショップの中では、公園が欲しい、医療機関をもっと充実させてほしいなどといった子供のことを考えた意見が多かった。どの世代の意見も簡単に実現できるところではないが少し変わるだけで楽になる人も多いのではないかと。また、子育て支援に積極的になり出す企業も増えており上田市の子育て環境は少しずついい方向に向かって動いている。(金井 茉優)

現在日本では少子化が急速に進んでおり、国としても様々な対策をとろうとしている。そんな日本の現状を踏まえて上田市子育て支援課の高橋さんは「複雑に多岐にわたっている子育てに対する様々なニーズや要望をいかに応えていくか、そういった現状を踏まえて今後どうするべきかというのが課題となっている」と話した。

当然上田市においても当てはまる。課題解決のためには上田市の中心市街地と周辺部での状況の違いを把握した上で地域に合った取り組みを行うことが必要となってきた。首都圏と地方で課題は同じであるものの、状況は異なっている。保育園の待機児童の問題が例の一つである。

この問題は首都圏では大きな問題になっているが、上田市では大きな問題とまではなっていない。これと同様に上田市の中にも地域によって課題やニーズは異なる。高橋さんが話すようにまずはワークショップなどを通して地域ごとの状況を把握することが必要だ。(金井 茉優)

健康プラザうえだに併設されている子育て支援センター



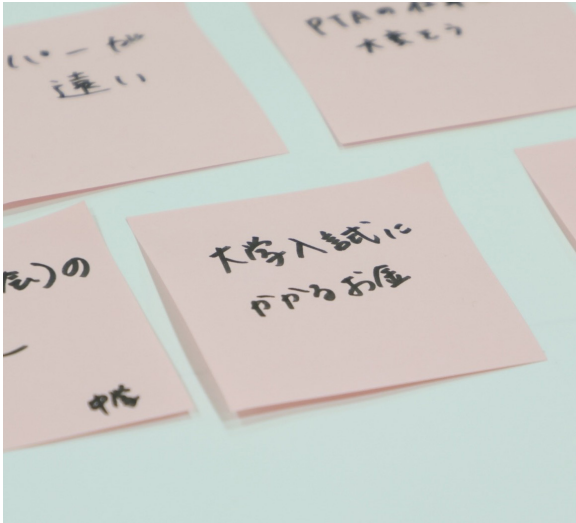
健康プラザうえだに併設されている子育て支援センター

子育て支援センターについて

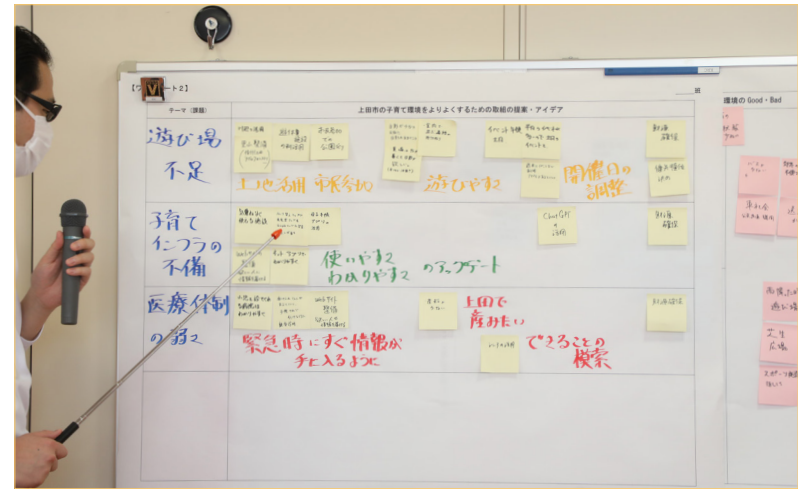
健康プラザうえだには子育て支援センターが併設されている。こういった施設は上田市内13ヶ所に設置されており、このような取り組みは他の自治体にはなかなかないそうだ。

この問題は首都圏では大きな問題になっているが、上田市では大きな問題とまではなっていない。これと同様に上田市の中にも地域によって課題やニーズは異なる。高橋さんが話すようにまずはワークショップなどを通して地域ごとの状況を把握することが必要だ。(金井 茉優)

現状把握で見えてきた様々な課題



保護者や高校生など様々な層を対象に行われたワークショップでは、参加者が保育士や子育て支援課の課長・係長などの役割をこなし、活発な意見交換が行われた



子育てのリアルを西高の先生方に取材

「仕事と家庭のバランスが難しい」

上田西高校で現在子育て真っ只中の先生方に話を聞いた。

現在、3児の父である数学科の羽田豊先生は、3人目が生まれる際に1週間の育児休暇を取得した。「学校で育児を取る男性教員がなかなかおらず、育児を取りづらいつつあるからこそ、誰かが取らなければと思いついて決意した」とその時の心情を話した。羽田先生が休暇中、学校や周囲の先生方が協力的に支えてくれたことで、育休終了時には子供のバランスを取る時間

供と離れることに寂しさを感じながらも、職場復帰することで生徒と顔を交わせることができ喜びを感じたと話した。

また、現在子育て中のある先生は、教育現場で働いていることに加え、運動部の顧問を務めているため試合や練習に忙殺され、家族との時間が少ないことに課題を感じていた。その課題に対して「家庭がうまくいっていないと仕事もうまくいかない」と話して、そのバランスを取る時間



取材に応じてくれた3児の父である数学科の羽田先生

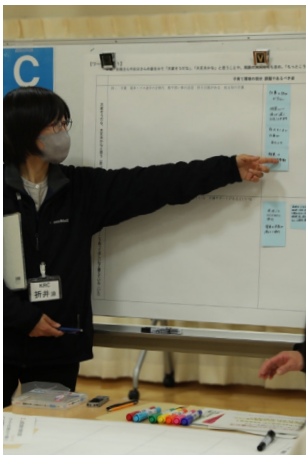
が必要だと思つ」と続けた。家庭での時間を増やすためには職場での仕事の分担や周囲の協力が大切である。働き方改革も積極的に行う必要がある。

子育てを女性のみでなく両親で行つことが当たり前となっている世の中で、子供を持つ

男性が子供のために育児や休みを取りづらいつつ環境にあるというのは大きな課題だ。父親の子育てに理解が深まり、家族との時間を増やすことができる社会になることも子育て環境に対する課題解決の一つである。

(金井 茉優)

株式会社 KRCがワークショップをリード



ワークショップをリードするKRCの職員

今回のワークショップは株式会社KRCが上田市から委託を受け企画。主体となった進めた小林真幸さんはワークショップ形式で行うことの利点について「発言の機会が増え、短時間でたくさん意見を出すことができる」と話した。

この日のワークショップでは、限られた時間の中で多くの意見が飛び交った。「大きな会議だと発言しにくいことも小さく分けて話し合うことで発言の機会が増える」と小林さん。探究の授業等でも行われるこのアプローチにより、集まった参加者は活発な議論を交わした。(金井 茉優)

コラム 子育てしやすい社会作り目指して

子育てに対する課題は様々であり、なかなか尽きない。現在は女性が活躍できる社会作りが進んだことで子供を持つ家庭でも共働きをする家庭が多くなってきた。その一方で、会社や家事についての課題が増加している。家族の時間が少ない、家事の負担が難しいといった課題もその一つだ。

高校生で行われたワークショップでも教科書や部活動にかかる費用、授業料などお金に関する課題や学校の施設に対する課題も出てきた。高校生は私たちが思っている以上に子育て環境に敏感で、社会の子育てに励む人たちに理解が進む環境を目標として、国や自治体の施策が待たれる。

(金井 茉優)